

# Windows Server 2012 R2 ライセンス データシート



## 製品の概要

Windows Server 2012 R2 には、エンタープライズ クラスのサーバーとクラウド プラットフォームをグローバルなクラウド サービスによって提供してきたマイクロソフトの経験が集約されています。Windows Server 2012 R2 を活用することによって、最も重要なワークロードに合わせてパフォーマンスを最適化し、強力な復旧オプションによってサービスを停止から保護できます。また、包括的な自動化機能や業界標準のハードウェアをベースとした記憶域およびネットワーク仮想化ソリューションによって複雑性とコストを削減したり、アプリケーションを開発、実行、拡張して、これらのアプリケーションを貴社データセンターとクラウド間で自由に移動させることができます。ユーザーには、場所やデバイスに制限されることのない柔軟なリモート アクセスを、企業情報を保護しながら提供することができます。

## エディションの概要

Windows Server 2012 R2 製品の各エディションは合理的かつシンプルに分類されているため、組織のニーズを最も満たすエディションをスムーズに選択することができます。

- **Datacenter エディション:** 高度に仮想化されたプライベート クラウド環境向け。
- **Standard エディション:** 仮想化されていない環境または軽度仮想化された環境向け。
- **Essentials エディション:** 最大 2 基のプロセッサを搭載したサーバー上で運用される、25 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。
- **Foundation エディション:** プロセッサ 1 基を搭載したサーバー上で運用される、15 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。

各エディションの機能の違いについては、[こちら](#)をご確認ください。

エディション	機能の比較	ライセンスモデル	価格*
Datacenter	仮想 OSE (無制限) すべての機能	プロセッサ + CAL**	\$6,155
Standard	仮想 OSE × 2 すべての機能	プロセッサ + CAL**	\$882
Essentials	プロセッサ × 2 OSE × 1 一部機能の制限	サーバー 最大 25 ユーザー	\$501
Foundation	プロセッサ × 1 一部機能の制限	サーバー 最大 15 ユーザー	OEM のみ

OSE: オペレーティング システム環境

\* 2 プロセッサの場合の Open No Level (NL) の推定小売価格 (具体的な価格についてはマイクロソフトのリセラーにお問い合わせください。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません)。

\*\* サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。詳細については[製品使用権説明書](#)をお読みください。

## ライセンスの概要

Windows Server 2012 R2 の各エディションのパッケージおよびライセンス体系は変更されていません。

Datacenter エディションと Standard エディションの違いは次のとおりです。

- **違いは仮想化の権利のみ** - Standard エディションでは 2 つの仮想インスタンスを実行でき、Datacenter エディションでは仮想インスタンスを無制限に実行できます。
- **プロセッサ ベースの一貫したライセンス モデル** - 最大 2 基の物理プロセッサを搭載したサーバー 1 台がカバーされます。

Essentials エディションと Foundation エディションの違いは次のとおりです。

- **サーバー ベースのライセンス モデル** - Foundation エディションは 1 基のプロセッサを搭載したサーバー向けで、Essentials エディションは 1 基または 2 基のプロセッサを搭載したサーバー向けです。
- **アクセスに CAL は不要** - Foundation エディションには 15 ユーザー アカウント、Essentials エディションには 25 ユーザー アカウントが付属しています。

## クライアント アクセス ライセンス (CAL)

これまでと同様、Windows Server の Standard エディションと Datacenter エディションでは、サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとに Windows Server CAL が必要です (例外については[製品使用権説明書](#)を、間接的なアクセスのライセンスに関する情報については『[マルチプレキシング \(多重化\) - クライアント アクセス ライセンス \(CAL\) の要件](#)』をお読みください)。

一部の追加機能または高度な機能では、これまでと同様に、追加の CAL を購入する必要があります。たとえば、リモート デスクトップ サービスや Active Directory Rights Management サービスなどの機能を利用する際は、Windows Server CAL に加えて追加の CAL が必要となります (追加の CAL の詳細については、『[ベースおよび追加クライアント アクセス ライセンス \(CAL\)](#)』ホワイト ペーパーをお読みください)。

**注:** Windows Server 2012 CAL は、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 へのアクセスに使用されます。

## Datacenter エディションと Standard エディションの ライセンス数を決定する

ライセンス 1 つにつき、最大 2 基の物理プロセッサを搭載したサーバー 1 台がカバーされます。各サーバーに必要なライセンスの最小数は、物理プロセッサの数によって決定されます。Standard エディションの場合、サーバーに追加のライセンスを割り当てることによって、仮想インスタンスを追加できます (ライセンスごとに 2 つの仮想インスタンスが追加されます)。

ライセンスの例	Datacenter ライセンスの 必要数	Standard ライセンスの 必要数
仮想化されていない 1 プロセッサ サーバー × 1	1	1
仮想化されていない 4 プロセッサ サーバー × 1	2	2
3 つの仮想 OSE が 稼働する 2 プロセッサ サーバー × 1	1	2
12 の仮想 OSE が 稼働する 2 プロセッサ サーバー × 1	1	6

## SA の権利

Windows Server 2012 R2 の一般提供開始時に、現行の Windows Server のライセンスを対象とした有効なソフトウェア アシュアランスがある場合は、Windows Server 2012 R2 への移行ライセンスが次のように付与されます。

現行のライセンス	交換率	新しいライセンス
Datacenter	1:1	Datacenter
Standard	1:1	Standard
Essentials	1:1	Essentials

# Windows Server 2012 R2 の計画

Windows Server 2012 R2 の導入を計画している場合は、次の点にご注意ください。

- Windows Server 2012 R2 のエディションは、仮想化のニーズと各エディションの機能に基づいて選択してください。
  - Datacenter エディション: 高度に仮想化されたプライベート クラウド向け。
  - Standard エディション: 軽度に仮想化された環境または仮想化されていない環境向け。
  - Essentials エディション: 最大 2 基のプロセッサを搭載したサーバー上で運用される、25 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。
  - Foundation エディション: 15 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。プロセッサ 1 基を搭載したサーバーを OEM から購入する場合に選択可能。

- 既存の投資を保護しながら最新バージョンのツールを利用し、さらに技術サポートと導入計画サービスを活用するには、ソフトウェア アシュアランスを更新することが最もお勧めの方法です。
- これまでどおり、マイクロソフト コア インフラストラクチャ スイート (CIS) は、プライベート クラウドおよびデータセンター管理の価格面で最大のメリットを提供します。
- Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディション上で実行されるワークロードにアクセスするための Windows Server CAL を購入する場合、これまでどおり、Core CAL スイートと Enterprise CAL スイートを選択することで最大のコスト効果が発揮されます。
- マイクロソフトでは、必要な IT 環境を予算内で実現していただくための柔軟なお支払方法をご用意しています。詳しくは、[www.microsoft.com/ja-jp/licensing/how-to-buy/financing.aspx](http://www.microsoft.com/ja-jp/licensing/how-to-buy/financing.aspx) をご覧ください。より詳しい情報については、マイクロソフト ソリューション パートナー (電子メール、電話: 0120-921-851) に直接お問い合わせください。

# 付録

## 実行インスタンス数によるエディションの比較

実行インスタンスは、物理オペレーティング システム環境 (POSE) と仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) のどちらにも配置させることができます。

エディション	POSE の 実行インスタンス数	VOSE の 実行インスタンス数
Datacenter	1	無制限
Standard	1 <sup>1</sup>	2
Essentials	1 <sup>1</sup>	1 <sup>2</sup>
Foundation	1	0

1 許容上限数の仮想インスタンスを実行する場合、物理インスタンスは、仮想インスタンスの管理と仮想インスタンスへのサービス提供にのみ使用できます。仮想環境のライセンスの詳細については、ホワイト ペーパー『ボリューム ライセンス簡易ガイド: 仮想環境で使用する Microsoft サーバー製品のライセンス』をお読みください。

2 Essentials は、VOSE で実行できる唯一のエディションです。

## サーバーの役割によるエディションの比較

各エディションの主なサーバーの役割は次のとおりです。

サーバーの役割	Datacenter Standard	Essentials	Foundation
AD 証明書サービス	●	■ <sup>1</sup>	○ <sup>1</sup>
AD ドメイン サービス	●	■ <sup>2</sup>	● <sup>3</sup>
AD フェデレーション サービス	●	●	●
AD ライトウェイト ディレクトリ サービス	●	●	●
AD RMS <sup>4</sup>	●	●	●

サーバーの役割	Datacenter Standard	Essentials	Foundation
アプリケーション サーバー	●	●	●
DHCP サーバー	●	●	●
DNS サーバー	●	■	●
FAX サーバー	●	●	●
ファイル サービス	●	■ <sup>5</sup>	○ <sup>5</sup>
Hyper-V	●	●	○
ネットワーク ポリシーとアクセ ス サービス	●	■	○
印刷とドキュメン ト サービス	●	●	●
リモート アクセス	●	■ <sup>6</sup>	○ <sup>6</sup>
リモート デスク トップ サービス <sup>7</sup>	●	■ <sup>8</sup>	○ <sup>9</sup>
UDDI サービス	●	●	●
Web サーバー (IIS)	●	■	●
Windows 展開 サービス	●	●	●
Windows Server Essentials エク スプレリエンス	●	■	○
Windows Server Update Services (WSUS)	●	●	○

- 完全
- 一部/制限
- 自動インストール/構成
- 利用不可

AD = Active Directory  
RMS = Rights Management サービス  
DNS = ドメイン ネーム システム

<sup>1</sup>証明機関の作成に制限されます。その他の Active Directory 証明書サービス機能 (ネットワーク デバイス登録サービス、オンライン レスポンダー サービス) はありません。詳細については、ADCS の役割に関する TechNet ドキュメントを参照してください。

<sup>2</sup>ADDS フォレストおよびドメインのルートにして、FSMO のすべての役割を設定する必要があります。

<sup>3</sup>ADDS の役割をインストールする場合、フォレストおよびドメインのルートにして、FSMO のすべての役割を設定する必要があります。

<sup>4</sup>アクセスには追加の AD RMS CAL が必要です。

<sup>5</sup>データ重複除去機能は利用できません。

<sup>6</sup>RRAS 接続が 50 件、IAS 接続が 10 件に制限されます。DirectAccess および VPN がサポートされます。

<sup>7</sup>Essentials エディションのリモート Web アクセス機能を使用する場合を除き、アクセスには追加の RDS CAL が必要です。

<sup>8</sup>RD ゲートウェイ役割サービスだけがインストールおよび構成されません。RD セッション ホストを始めとするその他の RDS 役割サービスはサポートされません。

<sup>9</sup>リモート デスクトップ サービス接続は 50 件に制限されます。

## 提供チャネル

エディションごとに異なる提供チャネルが用意されています。

エディション	ボリューム ライセンス	OEM	小売店	SPLA
Datacenter	●	●	○	●
Standard	●	●	●	●
Essentials	●	●	●	●
Foundation	○	●	○	○

# ライセンスについてよく寄せられる質問 (FAQ)

**Q: Windows Server 2012 R2 のライセンス提供方法を教えてください。**

A: Windows Server 2012 R2 のライセンス モデルは Windows Server 2012 のモデルと同じで、2 つのエディション (Standard エディションと Datacenter エディション) がボリューム ライセンスで提供されます。エディションの違いは仮想化の権利のみです (Standard の OSE は 2 つ、Datacenter の OSE は無制限)。1 つのライセンスは、最大 2 基の物理プロセッサをカバーします。

- サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。Windows Server 2012 に関連付けられた CAL で、Windows Server 2012 R2 の機能にアクセスできます。

**Q: Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの違いは何ですか。**

A: Standard エディションと Datacenter エディションでは、提供される機能は同じですが、仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) の数が異なります。Standard エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサ上で最大 2 つの VOSE を実行できます (ボリューム ライセンスの場合、製品使用権説明書で規定されている VOSE 使用権の対象となります。その他のチャネルの場合は、使用許諾契約書の対象となります)。Datacenter エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサで VOSE を無制限に実行できます。

**Q: Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス モデルの整合性は引き続き維持されるのですか。**

A: はい。Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス体系は以下の点で共通しています。

- 2 つのエディション (Standard と Datacenter) を提供。
- 1 つのライセンスで最大 2 基の物理プロセッサがカバーされる。
- エディションの違いは仮想化の権利のみ (Standard の OSE は 2 つ、Datacenter の OSE は無制限)。

(Windows Server 2012 R2 サーバーにアクセスするには、クライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。また、System Center が管理するエンドポイントには管理アクセス ライセンスが必要です。)

**Q: Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションと Standard エディションでは、どのような機能を利用できますか。**

A: Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションと Standard エディションにはさまざまな新機能が搭載されています。以下に機能の一部を紹介します。

- エンタープライズ クラスの仮想マシンの密度、パフォーマンス、モビリティ。マイクロソフト ワークロードに対するクラス最高のパフォーマンスと拡張性
- コスト効率に優れた業界標準ハードウェアに構築された、高パフォーマンスなファイル ベース記憶域 (記憶域の仮想化と階層化にも標準対応)
- マルチテナント環境、オンプレミスとクラウド、物理ネットワークと仮想ネットワークをつなぐ、可用性に優れた標準搭載のハイブリッド ネットワーク機能
- シンプルで低価格な障害復旧オプション。あらゆるワークロードにかかわる資産を保護、復旧
- 企業情報を保護しながらも場所とデバイスの制限を受けない、企業リソースへの柔軟なリモート アクセス

**Q: 適切な Windows Server 2012 R2 エディションを決定する方法を教えてください。**

A: Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの機能は同等で、仮想化の権利が唯一の違いなので、選択するエディションはおお客様の仮想化戦略に応じて判断していただくこととなります。高度に仮想化された環境が戦略上必要な場合は、仮想化に関する制限のない柔軟な Datacenter エディションが最適です。



このエディションでは、対象となるサーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要がなく、Datacenter がライセンスされている複数のサーバー間で仮想 OSE を自由に追加、移動できます。高度な仮想化環境が計画に含まれていない場合は、Standard エディションがお勧めです。Standard エディションを購入した後に、ライセンス対象のサーバーでより充実した仮想化機能が必要になった場合は、次のオプションを使用できます。

1. 追加の Standard エディション ライセンスを購入して同じ物理サーバーに割り当てることにより、Windows Server の追加インスタンスを実行できるようになります。このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。
2. Datacenter エディションへのソフトウェア アシュアランス ステップアップ ライセンスを購入し、ライセンスを上位のエディションに変更することによって仮想 OSE を無制限に実行できるようになります。この特典を活用するには、元のライセンスでソフトウェア アシュアランスを利用している必要があります。

**Q: Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンスを持っている場合、仮想化の権利をどのような方法で増やすことができますか。**

A: Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンス モデルでは、Datacenter エディションへのステップアップ ライセンスを購入するか (ソフトウェア アシュアランスがある場合)、追加の Standard エディションを購入して同じ物理サーバーに割り当てることによって仮想環境を拡大できます。このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。たとえば、2 プロセッサ サーバー 1 台で合計 4 つの VOSE を実行する場合、Standard エディションのライセンスを 2 つ購入して同じサーバーに割り当てることができます。その他の例については、以下の表を参照してください。

サーバー 1 台に割り当てる Standard エディション ライセンスの数	VOSE の合計数
1	2
2	4
3	6
4	8

**Q: サーバーに必要なライセンス数の計算方法を教えてください。**

A: 必要なライセンスの数は、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数と、実行するサーバー インスタンスの数によって決定されます (Datacenter エディションでは VOSE を無制限に実行できるため、この原則は Standard エディションにのみ適用されます)。これらの 2 つの数の大きい方によって、必要なライセンスの合計数が決定されます。

**まず、物理プロセッサのライセンス数を特定します。**

各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーするので、1 台の物理サーバー全体にライセンスを適用するために必要なライセンスの数を判断するには、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数を 2 で割ります (注: 物理プロセッサのコア数は関係ありません)。

いくつかの例をご紹介します。

- 2 プロセッサ サーバー 1 台の場合:  $2 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 1$ 。2 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 1 つです。
- 4 プロセッサ サーバー 1 台の場合:  $4 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 2$ 。4 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 2 つです。
- 8 プロセッサ サーバー 1 台の場合:  $8 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 4$ 。8 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 4 つです。

## 次に、実行する仮想インスタンスの数を特定します。

Standard エディションのライセンス数は、実行する VOSE の数をカウントすることによって特定できます (1 つのライセンスで最大 2 つの VOSE がカバーされます)。一方、Datacenter エディションのライセンスを購入する場合は、サーバー上で VOSE を無制限に実行できます。

1 つの Standard エディション ライセンスに最大 2 つの VOSE を実行する権利が付与されるので、必要な Windows Server の Standard エディションのライセンス数を特定するには、サーバーで実行する VOSE の合計数をカウントし、その数を 2 で割り、小数点を切り上げます。この整数が必要なライセンス数となります。

物理プロセッサと VOSE に基づいて特定された必要ライセンス数のうち、大きい数が必要なライセンスの合計数です。重要な点として、このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。

たとえば、1 台の 2 プロセッサ サーバーで 3 つの仮想マシン (VOSE) を実行する場合、3 つの仮想マシンをカバーするために 2 つのライセンスが必要です。

1 台のサーバーに 2 つの Standard エディション ライセンスを割り当てると、そのサーバーでは合計 4 つの VOSE を実行できます。同じサーバーに Standard エディション ライセンスを 1 つ追加すると、そのサーバーで実行できる VOSE の数は 2 つ増え、合計 6 つの VOSE を実行できるようになります。

### Q: 1 つの Standard ライセンスで 1 台のシングル プロセッサ サーバーをカバーできますか。

A: はい。1 つの Standard エディション ライセンスで、サーバー 1 台の最大 2 基の物理プロセッサをカバーできます。ただし、そのサーバーに必ずしも 2 基の物理プロセッサが搭載されている必要はありません。

### Q: Windows Server 2012 R2 のライセンスを複数のサーバーに分割できますか。

A: いいえ。各ライセンスは 1 台の物理サーバーにしか割り当てることができません。

### Q: Windows Server 2012 R2 のライセンスを仮想マシンに割り当てることができますか。

A: いいえ。ライセンスは物理サーバーに割り当てられます。各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーします。ライセンスを物理サーバーに割り当てた後、そのサーバーで VOSE を使用することができます。

### Q: 同一のサーバー上で Datacenter と Standard のライセンスを同時に使用できますか。

A: いいえ。サーバーに搭載されているすべてのプロセッサに、同じバージョンとエディションのライセンスを割り当てる必要があります。VOSE 内でゲストとして異なるエディションまたは古いバージョンの Windows Server ソフトウェアを実行できますが、バージョンやエディションが異なる複数のライセンスを同一の物理サーバーに割り当てても、そのサーバーに搭載されているプロセッサにライセンスを適用することはできません。

### Q: バージョンまたはエディションの異なる Windows Server のライセンスを追加して仮想化の権利を増やすことはできますか。

A: はい。サーバーに追加の Windows Server ライセンスを割り当てて、仮想化の権利を増やすことができます。ただし、新しく割り当てるライセンスは、関連付けられたライセンスの規則に従う必要があります。たとえば、古い Windows Server の Enterprise エディション (提供終了) ライセンスが割り当てられている 4 プロセッサ サーバーに Windows Server 2012 R2 の Standard エディション ライセンスを追加して仮想化の権利を増やす場合、そのサーバーに搭載されているすべてのプロセッサが Windows Server 2012 R2 の Standard エディション ライセンスが適用されている状態にする必要があります。したがって、(各ライセンスが最大 2 基のプロセッサをカバーするため) 合計で 2 つの Windows Server 2012 R2 の Standard エディション ライセンスが必要になります。



**Q: 以前のバージョンまたはエディションの Windows Server のソフトウェアを使用できるようにするには、どのような選択肢がありますか。**

A: Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションには、ソフトウェア ビットを以前のバージョンまたは下位エディションにダウングレードする権利が付属しています。Windows Server 2012 R2 の Standard エディションには、ソフトウェアをダウングレードして以前のバージョンの Enterprise、Standard、Essentials のいずれかのエディションを使用する権利が付属しています。

ダウングレード権は、製品を使用する際のライセンスやサポートの条項を変更するものではありません。購入した製品 (Windows Server 2012 R2) の権利が常に適用されます。つまり、このライセンスで引き続き最大 2 基の物理プロセッサがカバーされ、仮想化の権利も変更されません。また、例外として、購入したバージョンに対応するクライアントアクセス ライセンス (CAL) が適用されます。ダウングレード対象の以前のバージョンを実行する場合も、対応する CAL バージョンを使用できます (存在する場合)。

以下にいくつかの例をご紹介します。

購入したライセンス	ダウングレード後のバージョンまたはエディション	適用されるビットの権利	適用されるライセンスの権利
Datacenter 2012 R2	Datacenter 2008	Datacenter 2008	Datacenter 2012 R2 <sup>1</sup>
Standard 2012 R2	Enterprise 2008 R2	Enterprise 2008 R2	Standard 2012 R2 <sup>1, 2</sup>
Standard 2012 R2	Standard 2008	Standard 2008	Standard 2012 R2 <sup>1, 2</sup>
Standard 2012 R2	Essentials 2012	Essentials 2012	Standard 2012 R2 <sup>1, 2</sup>

1 ライセンス 1 つで最大 2 基のプロセッサをカバーします。

2 ライセンス 1 つで最大 2 つの仮想マシンを実行できます。

**Q: Windows Server 2012 R2 の一般提供開始時にソフトウェア アシュアランスがある場合、この権利がライセンスレコードに反映されるのはいつですか。**

A: Windows Server 2012 R2 が使用できるようになるとすぐに、ボリューム ライセンス サービス センター (VLSC) に権利が反映され、資格を持つ Windows Server 2012 R2 のエディションの永続的な権利が (元になるライセンスに基づいて) 直ちに付与されます。

**Q: Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 の Datacenter エディションとソフトウェア アシュアランスを持っている場合、どのエディションを取得できますか。**

A: Datacenter エディションのソフトウェア アシュアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションを取得できます。ソフトウェア アシュアランスのある Windows Server 2012 の Datacenter ライセンス 1 つに対して、Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションのライセンスが 1 つ提供されます。

**Q: Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 の Standard エディションとソフトウェア アシュアランスを持っている場合、どのエディションを取得できますか。**

A: Standard エディションのソフトウェア アシュアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 の Standard エディションを取得できます。ソフトウェア アシュアランスのある Windows Server 2012 の Standard ライセンス 1 つに対して、Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンスが 1 つ提供されます。

**Q: マイクロソフトの購入プログラムによるソフトウェア アシユアランス移行の権利はどのようなものですか。**

A: 契約終了時におけるソフトウェア アシユアランス移行の権利は、マイクロソフト購入プログラムごとに規則が異なります。次の表を参照してください。

プログラム	リリース時におけるソフトウェア アシユアランス
Enterprise Agreement	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の永続的権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社が同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。
Enterprise Agreement Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、お客様の価格シートに記載されている買取価格またはリセラーのチャネル価格シートに基づいた買取価格で新しい Windows Server 2012 R2 製品を購入するか、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
教育ソリューション加入契約 - スクール加入契約	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、元の Windows Server 2012 製品を買い取るか、新しい Windows Server 2012 R2 製品を契約終了時の公開価格リストの買取価格で買い取ることができます (この場合、Windows Server のライセンスの根拠となる 36 か月以上の契約 (更新を含む) が契約満了直前に 1 つ以上存在していることが条件です)。または、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Open Value	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社が同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。
Open Value Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、契約した元の Windows Server 2012 製品を元の価格リストの価格で買い取るか、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Open Value Subscription - 教育ソリューション	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、元の Windows Server 2012 製品を買い取るか、新しい Windows Server 2012 R2 製品を契約終了時の公開価格リストの買取価格で買い取ることができます (この場合、Windows Server のライセンスの根拠となる 36 か月以上の契約 (更新を含む) が契約満了直前に 1 つ以上存在していることが条件です)。または、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Select/Open	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社が同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。

**Q: Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの価格を教えてください。**

A: 価格レベルはさまざまに異なります。具体的な価格についてはマイクロソフト リセラーにお問い合わせください。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません。

Windows Server のエディション	ボリューム ライセンス Open No Level の 推定小売価格
Datacenter	\$6,155
Standard	\$882

**Q: Windows Server 2012 R2 Datacenter の価格が変更されているのはなぜですか。**

A: マイクロソフトは価格とライセンスに関する決定を慎重に行っています。すべての価格設定は、製品価値、お客様とパートナー様のフィードバック、市場状況の変化を考慮した結果です。Windows Server の Datacenter エディションは高度に仮想化された環境に最適化されており、ライセンスには無制限の仮想化の権利が含まれています。このため、サーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要がなく、ライセンスされた複数のサーバー間で仮想 OSE を自由に追加、移動できます。

Windows Server は、これまでの数回のリリースを通して、高度に仮想化されたデータセンターとクラウド環境のサポートを目的に、かなりの数に上る新機能と機能強化、パフォーマンスの向上、処理能力の増強を実現してきました。こうした取り組みの一部を以下に紹介します。

- 以下のサポートを含む、パフォーマンスの拡張性強化
  - ハードウェア上の 320 基の論理プロセッサ
  - 4 TB の物理メモリ
  - VM あたり 64 基の仮想プロセッサ
  - VM あたり 1 TB のメモリ
  - ホストあたり 1,024 個のアクティブな VM
- バージョンをまたがるライブ マイグレーション、ライブ マイグレーション圧縮、RDMA を使用したライブ マイグレーションなど、ライブ マイグレーション機能の強化
- VHDX の拡大/縮小をダウンタイムなしで処理する機能
- ターシャリ (第 3) サイトのサポートやわずか 30 秒の同期間隔など、Hyper-V レプリカの機能強化
- その他多数

高度な仮想化が必要でないサーバーでは Windows Server Standard が最適です。このエディションでは、1 ライセンスで 2 つのインスタンスを実行でき、必要に応じて 1 台のサーバーに複数のライセンスを割り当てて、サーバー上の実行可能な OSE の密度を増やすこともできます。Windows Server Standard のライセンスが適用されたサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。

**Q: Windows Server 2012 R2 にアクセスするために必要なクライアント アクセス ライセンス (CAL) は何ですか。**

A: Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 へのアクセスには、Windows Server 2012 クライアント アクセス ライセンス (CAL) を使用します。Windows Server 2012 CAL のソフトウェア アシュアランスがなくても、Windows Server 2012 R2 にアクセスできます。Windows Server 2012 R2 では、Windows Server 2012 と同じ CAL バージョンが必要です。

**Q: リモート デスクトップ サービス (RDS) と Active Directory Rights Management サービス (AD RMS) にアクセスするには、引き続き CAL が別途必要ですか。**

A: はい。リモート デスクトップ サービス (RDS) と Active Directory Rights Management サービス (AD RMS) のライセンスに関する要件は、Windows Server 2012 R2 でも変わりません。これまで同様、AD RMS の機能にアクセスするには AD RMS CAL を、RDS の機能にアクセスするには RDS CAL を、それぞれ Windows Server CAL とは別にご購入いただく必要があります。たとえば、Windows Server 2012 R2 で RDS の機能にアクセスするには、サーバー ソフトウェアに加えて、Windows Server 2012 CAL と Windows Server 2012 RDS CAL が必要です。

**Q: “プレビュー” と “一般提供” の Windows Server 2012 R2 を Microsoft Azure で実行する場合の価格を教えてください。**

A: プレビューの場合、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE は、Linux を実行する VOSE と同じ料率で課金されます。一般提供時には、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE は、Windows Server 2012 を実行する VOSE と同じ料率で課金されます。

**Q: Windows Server 2012 R2 のライセンスとイメージは、Hyper-V と Azure の間で移動できますか。**

A: Windows Server 2012 と同様に、Windows Server 2012 R2 のライセンスは、ソフトウェア アシユアランス特典によるライセンス モビリティの対象とはなっていません。他のサーバー アプリケーションについてはこれまでどおりライセンス モビリティの権利を利用できますが、Windows Server についてはサービス プロバイダーまたは Azure から別途購入する必要があります。

**Q: Azure 上で実行する Windows Server 2012 R2 インスタンスの管理に必要な System Center ライセンスは何ですか。**

A: ソフトウェア アシユアランスのライセンス モビリティを使用して、Azure で実行する Windows Server インスタンスに System Center 2012 R2 ライセンスを割り当てることができます。

**Q: コア インフラストラクチャ スイートの Windows Server 2012 R2 の一部のインスタンスを Azure で実行するには、どのようにライセンスを割り当てたらよいですか。**

A: Windows Server は、スタンドアロン ライセンスとしても、購入したコア インフラストラクチャ スイート製品内のコンポーネントとしても、モビリティの権利を提供しないため、コア インフラストラクチャ スイートの Windows Server のライセンスを Azure で実行することはできません。

**Q: 障害復旧計画で復旧サーバーを実現するためのライセンス オプションを教えてください。**

A: 以下に該当する場合は、障害復旧サーバーに Windows Server ライセンスが必要です。

- フェールオーバー クラスターを稼働している場合は、すべてのプロセッサおよび実行されるすべての OSE (これには、別の OSE の障害発生時にのみ運用環境の負荷を引き受ける設定の OSE も含まれます) にライセンスが必要です。
- (仮想または物理を問わず) Windows OSE を実行している復旧サーバーがあり、そのサーバーが (後述の例外期間以外の期間も含めて) 通常はオンラインになっている場合、運用サーバーの障害発生時にのみ運用環境の負荷を引き受ける設定であっても、その OSE にはライセンスが必要です。

障害復旧用のサーバーまたは OSE を実行する予定がない場合は、障害復旧の権利を特典として提供するソフトウェア アシユアランスでプライマリ サーバーのライセンスを取得すれば十分だと考えられます。ソフトウェア アシユアランスの障害復旧に関する特典では、以下の例外期間に限り、障害復旧サーバーまたは OSE を実行することができます。

- 障害復旧テストを目的とした短い期間 (90 日間ごとに 1 週間以内)
- 障害発生時に、復旧対象の運用サーバーが停止している期間



- 障害発生時や障害発生の前後、プライマリの運用サーバーと障害復旧サーバー間の転送を実施するための短い期間

障害復旧の権利の下でソフトウェアを利用するには、次の条件を満たす必要があります。

- 障害復旧サーバーの OSE が、上記の状況以外で実行されないこと
- 障害復旧サーバーの OSE が、運用サーバーと同じクラスターに配置されないこと
- 次の条件を満たしている場合、障害復旧サーバーに Windows Server のライセンスは必要ありません。
  - Windows Server の Hyper-V の役割が、プライマリ サイトの運用サーバーから障害復旧サーバーへの仮想 OSE の複製に使用される場合
  - 障害復旧サーバーの使用目的が以下に限定されている場合
    - Hyper-V などのハードウェア仮想化ソフトウェアだけを実行する
    - ハードウェア仮想化サービスを提供する
    - ハードウェア仮想化ソフトウェアの管理用エージェントを実行する
    - レプリケーションの際の複製先として機能する
    - 複製された仮想 OSE を受け入れる、フェールオーバーのテストを実施する、仮想 OSE のフェールオーバーを待機する
    - 前述の障害復旧時のワークロードを実行する
  - 障害復旧サーバーを運用サーバーとして使用しない場合
- 障害復旧サーバーの OSE でソフトウェアを使用する場合、当該ソフトウェアのライセンス条件に従う
- 障害復旧プロセスが完了し運用サーバーが復旧した後は、障害復旧サーバーの OSE は、ここで実行が許可されている場合以外に実行できない
- 障害復旧サーバーで実行されるライセンス済みソフトウェアへのアクセスおよびソフトウェアが実行される OSE の管理のために、すべての CAL、External Connector ライセンス、Server Management ライセンスに対応するソフトウェア アシュアランスを維持する
- バックアップ インスタンスを実行できる権利は、ソフトウェア アシュアランス契約の終了と共に終了する

プライマリ サーバーに恒久的なハードウェア障害が発生し、セカンダリ サーバーのライセンスが存在しない場合、直近の割り当てから 90 日以上が経過していなくても、プライマリ サーバーのライセンスを障害復旧サーバーに割り当てることができます。ただし障害復旧サーバーにライセンスを割り当ててから 90 日間は、同じライセンスを別の代替サーバーに割り当て直すことはできません。詳しくは、製品使用権説明書の「ハードウェアの故障による早期再割り当て」の規則をお読みください。

## Windows Server 2012 R2 - Essentials エディションと Foundation エディション

### Q: Windows Server 2012 R2 Essentials のライセンス モデルに変更はありますか。

A: これまでと同様、Windows Server 2012 R2 Essentials では、最大 2 基の物理プロセッサを搭載した 1 台のサーバーをカバーするライセンスが提供されます。CAL は必要ではありませんが、ユーザー アカウント数は 25 までに制限されます。

以前のバージョンである Windows Server の Essentials エディションでは、Windows Server を仮想マシンとして実行するにはハイパーバイザーを別途取得する必要がありました。選択肢としては、無料の Microsoft Hyper-V Server を使用するか、Windows Server の Standard エディションを使用して Hyper-V を実行するなどの方法がありました。Windows Server 2012 R2 の Essentials エディションでは、製品のライセンス条項が拡張され、物理サーバー上



で 1 つのオペレーティング システム インスタンスを Hyper-V 用 to 実行し、同じサーバーで 2 つ目のオペレーティング システム環境を実行して、この環境で Essentials を仮想マシンとして実行できます。また、新たに導入されたインストール ウィザードを使用してホスト サーバー環境の設定と構成手順を自動化することで、仮想マシンとしての展開プロセスを簡略化することができます。それにより、Hyper-V およびその機能 (ライブ マイグレーションや Hyper-V レプリカなど) を、これまでよりも簡単に活用できるようになります。

**Q: Windows Server 2012 R2 Essentials にはどのような新機能がありますか。**

A: Windows Server 2012 R2 Essentials に組み込まれた優れた機能セットにより、以下のことを可能にする、大部分の小規模ビジネスに適したサーバー環境を構築することができます。

- データの保護
- セキュリティ保護されたリモート アクセスの提供
- クラウド サービスの統合

お客様は、重要な基幹業務アプリケーションやその他の社内ワークロードを実行する基盤として Windows Server 2012 R2 Essentials を活用できます。また、実行されるクラウド ベースのアプリケーションとサービス (電子メール、コラボレーション、オンライン バックアップなど) の管理エクスペリエンスを統合できます。

**Q: Windows Server 2012 R2 Essentials では、その他にどのようなエディションを利用できますか。**

A: 利用できるのは Windows Server 2012 R2 Essentials エディション 1 種類だけです。Windows Server 2012 R2 Essentials は、社内ワークロードまたはクラウド ベースのワークロードの実行基盤となる、柔軟性に優れた製品です。

**Q: Windows Server Essentials の価格を教えてください。**

A: 具体的な価格についてはマイクロソフト リセラーにお問い合わせください。実際の価格はさまざまに異なります。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません。

エディション	ボリューム ライセンス Open No Level の 推定小売価格
Essentials	\$501
Foundation	OEM のみ

**Q: Windows Server 2012 の一部として、Foundation エディションにライセンス面の変更はありますか。**

A: Foundation エディションのライセンスと価格モデルに変更はありません。機能とライセンスの詳細については、[Windows Server 2012 R2 のライセンス関連サイト](#)をご覧ください。